

令和8年度 仙北市
「全国学力・学習状況調査」
結果分析・改善報告書

I 報告書の作成にあたって

本報告書は、「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」に則って作成した。
報告書作成の基本的な立場については「第2条（結果の公表）」に基づき、また、その内容については、「第4条（改善策の立案）」の規定に従っている。

（結果の公表）

第2条

仙北市教育委員会は公立学校設置管理者として地域住民及び保護者に対して結果についての説明責任があることから、次のことに配慮しながら本調査の結果を公表する。

- (1) 教科に関する調査結果の数値による公表や、個々の学校名を明らかにした公表など、結果の公表が学校間の序列化や過度な競争につながるような公表は行わないこと
- (2) 本調査の結果から教育及び教育施策の成果と課題を把握しその改善を図る必要があること
- (3) 本調査の結果の分析を踏まえて仙北市教育委員会として今後の改善方策を併せて示す必要があること
- (4) 本調査により測定した学力は特定の一部であること
- (5) 本調査により測定した学力は固定値ではなく変化するものであること

（改善策の立案）

第4条

結果を受けた改善策は仙北市教育委員会北浦教育文化研究所「研究主任部会」及び「算数・数学学習指導研究委員会」、「国語学習指導研究委員会」、「英語学習指導研究委員会」に研究推進アドバイザーを加えた「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」において、次の内容について立案し教育委員会に報告する。

- (1) 主として「知識」に関する問題について、結果に応じてその内容を確実に児童生徒に身に付けさせる方策について
- (2) 主として「活用」に関する問題について、実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力を身に付けさせるための授業改善のあり方について
- (3) 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について
- (4) その他

以上の点を踏まえて、仙北市教育委員会が仙北市民に対する説明責任を果たし、学校の教育及び教育委員会の教育施策の改善に資することを目的として本報告書を作成した。

Ⅱ 調査の概要

1 調査の目的

○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から

- ・全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

【小学校調査】 小学校第6学年

【中学校調査】 中学校第3学年

3 調査事項

①児童生徒

○教科調査〔国語、算数・数学、英語（中学校のみ）〕※英語は令和5年度以来の実施

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

○質問調査

- ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

②学校

○質問調査

- ・指導方法に関する取組や人的・物的教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査問題

- ・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題
- ・「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善のメッセージを発信。

5 調査期日 令和8年4月20日（月）～5月29日（金）

【教科調査】 4月23日（木） 国語・算数（小）、国語・数学（中）
4月20日（月）～27日（月） 英語（中）

【質問調査】 4月24日（金）～5月8日（金）小学生
4月20日（月）～4月23日（木）中学生
4月1日（水）～4月17日（金）学校

6 調査を実施した児童生徒数・学校数

小学校	児 童 数 (人)		
	国語	算数	質問紙
全国（公立）	922,411	922,778	922,778
秋田県（公立）	5,510	5,508	5,510
仙北市	129	129	129

中学校	生 徒 数 (人)			
	国語	数学	英語	質問紙
全国（公立）	841,873	842,491	839,203	842,491
秋田県（公立）	5,776	5,771	5,756	5,776
仙北市	158	157	157	158

調査実施校数	小学校	中学校
全国（公立）	18,077校(99.7%)	9,146校(98.9%)
全国（国立）	74校(98.7%)	77校(96.3%)
全国（私立）	120校(47.6%)	207校(25.9%)
合計	18,271校(99.0%)	9,430校(93.1%)
仙北市	5校	5校

Ⅲ 結果

- ※ 本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が国語、算数・数学、英語の3教科であり、また、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではない。従って、本調査の結果については児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校等における教育活動の一側面にすぎないことに留意する必要がある。
- ※ 「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」第2条に基づき、教科に関する調査結果の数値による公表は行わない。〈表2〉の階層区分と表現による公表としている。

1 教科に関する調査の結果

(1) 概要

本調査における全国調査校（以下、全国）及び秋田県調査校（以下、秋田県）の平均正答率と仙北市調査校（以下、仙北市）の平均正答率を、小学校6年国語・算数、中学校3年国語・数学・英語で比較し、その状況が良好であるものを「成果」として、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

〈表1〉：全国及び秋田県の県平均正答率等とのスコア比較

	教科等	区分	平均正答率	仙北市の状況
小学校6年生	国語	全国(公立)	60.9%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	65%	
	算数	全国(公立)	56.4%	
		秋田県(公立)	58%	
中学校3年生	国語	全国(公立)	63.9%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	67%	
	数学	全国(公立)	57.0%	
		秋田県(公立)	58%	
	英語	全国(公立)	49.9	
		秋田県(公立)	48.9	

※「仙北市の状況」は、〈表2〉の表現にしたがって国及び県の平均正答率との比較による。

※中学校3年生の英語は平均IRTスコアによる比較となっている。平均IRTスコアは、各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

〈表2〉：〈表1〉の「仙北市の状況」に係る階層区分と表現（以下の表同じ）

	階層区分	表現
1	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が+6%以上であるもの	十分満足できる状況
2	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が+6%未満～-6%より大きい状況であるもの	概ね満足できる状況
3	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が-6%以下であるもの	改善が必要な状況

※〈表2〉は「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」第3条（別表2）による。

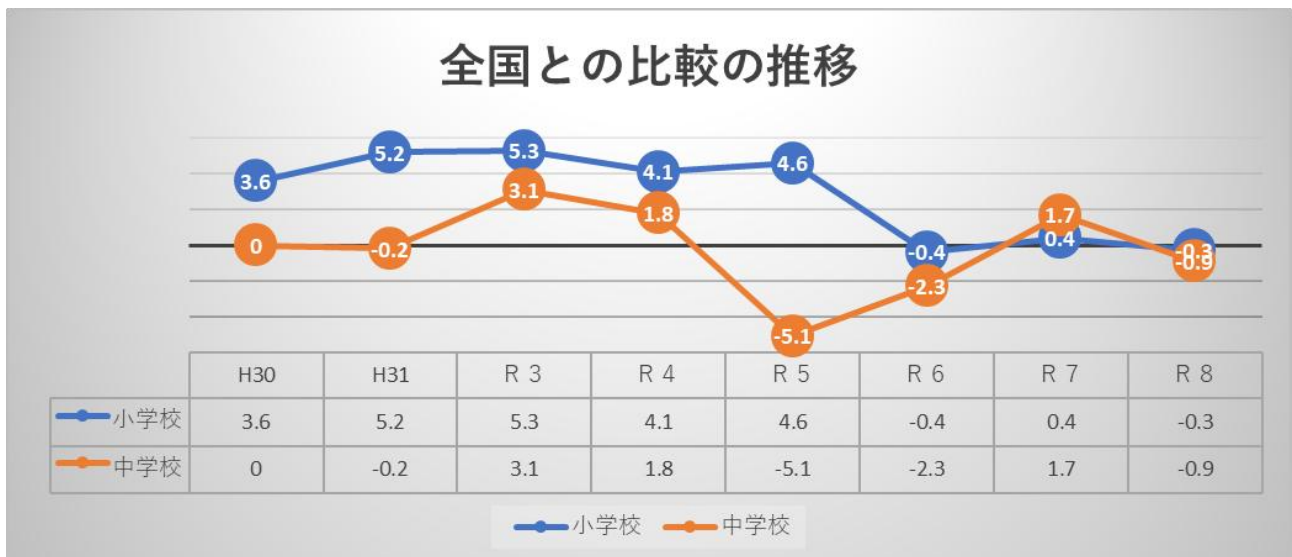
【成果】

- ① 国及び秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、〈表 1〉にあるように、仙北市の小学校 6 年生の国語・算数の学習状況は「概ね満足できる状況」である。
- ② 国及び秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、〈表 1〉にあるように、仙北市の中学校 3 年生の国語・数学・英語の学習状況は「概ね満足できる状況」である。

【課題】

- ① 秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、小学校 6 年生国語、算数において仙北市が若干下回っている。
- ② 秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、中学校 3 年生国語、数学において仙北市が若干下回っている。

〈グラフ 1〉：全国と仙北市との平均正答率の差の推移（国語、算数・数学）



(2) 設問分類・区分別集計結果から

本調査における設問を「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」で分類し、全国及び秋田県と仙北市の平均正答率を比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

また、仙北市の状況の中で学年・教科・区分について「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」の視点から、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

① 仙北市と全国との平均正答率比較

校種	教科	十分満足できる状況	概ね満足できる状況	改善が必要な状況
小学校6年生	国語	【指導要領の内容】 ○言葉の特徴や使い方に関する事項 【問題形式】 ○短答式	左記以外の全項目	該当無し
	算数	該当無し	右記以外の全項目	【評価の観点】 ●思考・判断・表現 【問題形式】 ●記述式
中学校3年生	国語	該当無し	全項目	
	数学	該当無し	右記以外の全項目	【指導要領の領域】 ●B 図形
	英語	該当無し	右記以外の全項目	【問題形式】 ●短答式／口述式

② 仙北市と秋田県との平均正答率比較

校種	教科	十分満足できる状況	概ね満足できる状況	改善が必要な状況
小学校6年生	国語	該当無し	全項目	該当無し
	算数	該当無し	右記以外の全項目	【評価の観点】 ●思考・判断・表現 【問題形式】 ●記述式
中学校3年生	国語	該当無し	全項目	該当無し
	数学	該当無し	右記以外の是脳目	【指導要領の領域】 ●図形
	英語	該当無し	全項目	該当無し

〈表 3－(1)〉：「小学校 6 年国語」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立) %	全国平均正答率 (公立) %	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 の要 内領 容	言葉の特徴や使い方にに関する事項 (知・技)	4	73.5	66.8	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	情報の扱い方にに関する事項 (知・技)	2	57.0	52.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	我が国の言語文化に関する事項 (知・技)	0				
	話すこと・聞くこと (思・判・表)	3	67.4	65.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書くこと (思・判・表)	2	48.4	45.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読むこと (思・判・表)	2	70.6	65.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価 点の	知識・技能	6	68.0	62.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	思考・判断・表現	7	62.9	60.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題 形式	選択式	9	64.6	61.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	2	71.1	62.6	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	2	62.4	54.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

〈表 3－(2)〉：「小学校 6 年算数」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立) %	全国平均正答率 (公立) %	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 の要 領 域	A 数と計算	8	62.6	61.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	B 図形	4	54.5	55.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	C 測定	1	77.8	78.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	C 変化と関係	3	39.7	41.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	D データの活用	4	51.6	48.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価 点の	知識・技能	12	60.1	60.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	思考・判断・表現	4	50.0	45.4	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題 形式	選択式	5	57.4	56.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	8	58.9	59.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	3	54.2	48.5	改善が必要な状況	改善が必要な状況

〈表 3－(3)〉：「中学校 3 年国語」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立) %	全国平均正答率 (公立) %	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の 要 内 領 容	言葉の特徴や使い方に関する事項（知・技）	5	66.1	63.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	情報の扱い方に関する事項（知・技）	1	72.0	70.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	我が国の言語文化に関する事項（知・技）	0				
	話すこと・聞くこと（思・判・表）	3	66.3	63.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書くこと（思・判・表）	3	71.2	67.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読むこと（思・判・表）	3	62.3	59.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評 価 点 の	知識・技能	6	67.1	64.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	思考・判断・表現	9	66.6	63.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問 題 形 式	選択式	9	74.7	72.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	3	60.7	55.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	3	49.3	45.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

〈表 3－(4)〉：「中学校 3 年数学」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立) %	全国平均正答率 (公立) %	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の 導 領 要 域 領	A 数と式	5	69.5	67.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	B 図形	4	47.9	48.7	改善が必要な状況	改善が必要な状況
	C 関数	3	55.7	54.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	D データの活用	4	56.9	53.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評 価 点 の	知識・技能	12	64.1	63.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	思考・判断・表現	4	41.2	39.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問 題 形 式	選択式	3	61.0	59.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	9	65.1	64.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	4	41.2	39.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

〈表 3－(5)〉：「中学校 3 年英語」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
の 領 域 指 導 要 領	話すこと	5	62.4	62.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読むこと	5	59.4	60.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書くこと	6	41.9	43.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
観 点 評 価 の	知識・技能	4	56.3	59.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	思考・判断・表現	12	52.9	52.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問 題 形 式	選択式	10	60.8	61.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式／口述式	2	49.7	55.8	概ね満足できる状況	改善が必要な状況
	記述式／口述式	4	38.0	36.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

〈表 3－(6)〉 問題別における主な成果と課題

	教科	項目	問題番号／出題の趣旨	評価の観点
小 学 校 6 年 生	国語	成果	2二 考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解できる。(選択式)	知識・技能
		課題	1二(2) 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができる。(選択式)	思・判・表
	算数	成果	1(1) 立方体の体積の計算による求め方について理解している。(短答式)	知識・技能
		課題	3(3) 異分母の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できる。(記述式)	思・判・表
中 学 校 3 年 生	国語	成果	4二 文脈上の意味を捉えることができる(短答式)	知識・技能
		課題	2一 目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討できる(選択式)	思・判・表
	数学	成果	9(1) 累積度数の意味を理解している。(短答式)	知識・技能
		課題	8(2) 筋道を立てて考え、証明できる。(記述式)	思・判・表
	英語	成果	7 日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができる(選択式)	思・判・表
		課題	10(1) 短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができる。(記述／口述式)	思・判・表

※各教科の全問題から、県の正答率を最も上回るものを「成果」、下回るものを「課題」として、表記する。

2

花山さんの学級では、夏を快適に過ごすためのくふうについて調べて考えたことを書き、友達と報告し合うことにしました。花山さんは、「暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう」について調べ、文章を書いていきます。次の「花山さんの文章の一部」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【花山さんの文章の一部】

暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう

1 はじめに

夏休みに外出したとき、長そでの服を着ている人を見かけた。
暑いときは、そでがみじかい方がすずしいのではないか。
なぜ、長そでの服を着ているのかふしぎに思い、暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることにした。

2 どうして暑い日に長そでの服を着るのか

「生活と太陽」という本には、「日差しの強いときにはだを出して日焼けをすると、はだがひりひりしたり、水分が失われたりする。」と書かれている。また、「世界の衣服」という本には、「暑い国の中には、はだのほとんどを衣服でおおっている人たちがいる。皮ふに直しゃ日光を当てない方がすずしいのである。」と書かれている。①強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうだ。

では、すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのだろうか。

3 すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのか

「熱中しょうかん境保健マニュアル2022」には、暑さをさける衣服のくふうとして、「ゆったりした衣服にする。」「えり元をゆるめて通気する。」と書かれている。また、「夏のくらし方」という本には、「服とはだの間に風が通るようにえり元やすそをゆったりさせると、すずしくなります。」と書かれている。〈図〉のように衣服の形や着方を意識してくふうすることで、長そでの服でもすずしく快適に過ごすことができそうだ。

では、衣服の形や着方以外に、快適に過ごすくふうはあるのだろうか。

〈図〉



二 花山さんは、「花山さんの文章の一部」の部①で述べた「くふう」を具体的に説明したいと考え、文を書き加えることにしました。部①に続く文として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 例えば、長そでのシャツをはおるなどのくふうが考えられる。
- 2 例えば、そでのないシャツを着るなどのくふうが考えられる。
- 3 例えば、えり元を開けて着るなどのくふうが考えられる。
- 4 例えば、日かげを選んで歩くなどのくふうが考えられる。

【成果】

問題番号2二(3・4年 情報の扱い方に関する事項 ア) 正答1
【花山さんの文章の一部】の下線部①に続く文として適切なものを選択する問題

二 岡野さんたちのグループは、「構成メモ」をもとに、「中①」を次の【動画の一部】のようにさつえいしました。これをよく読んで、あとの(1)から(3)の問いに答えましょう。

【動画の一部】

〈映像〉	〈音声〉
	岡野・水谷「音を鳴らして遊ぼう。」
	岡野「みなさん、この音を聞いてください。」 『ビー♪(くき笛の音)』 岡野「これは何の音だと思いますか。」
	水谷「これはたんぼぼで作ったくき笛の音です。」 岡野「どうしたらこんな音が出るんですか。」
	水谷「くき笛は、たんぼぼの花の部分を取りのぞいて」
	水谷「片方のくきの先をつぶして作ります。」
	水谷「つぶした方をくちびるでくわえ、風船をふくらませるように息をふきこむと」 『ビー♪(くき笛の音)』 水谷「このように音を出すことができます。」
	水谷「くきの長さが変わると、音の高さも変わります。いっしょにふいてみましょう。」 『ビー♪(くき笛の音)』『ポー♪(くき笛の音)』
	岡野「友達といっしょに音を鳴らすと音が重なって、とても楽しいですね。」

(2) 岡野さんたちのグループは、「動画の一部」の部の部分をくふうしました。そのくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

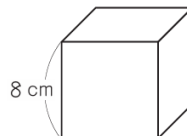
- 1 映像で示したくき笛の作り方が伝わるように、大事な言葉をくり返し使って説明している。
- 2 映像で示したくき笛の鳴らし方を伝えるために、草花の一部を具体的に取上げて説明している。
- 3 映像で示したくき笛の作り方が伝わるように、注目してほしいところを動作に合わせて説明している。
- 4 映像で示したくき笛の鳴らし方を伝えるために、鳴らし方のコツを手順に沿って説明している。

【課題】問題番号1二2(5・6年話すこと・聞くこと ウ) 正答3

【動画の一部】の部の部分の工夫として適切なものを選択する問題

立方体や直方体について考えます。

- (1) 1 辺が 8 cm の立方体の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。
ただし、計算の答えを書く必要はありません。



【成果】 問題番号 1 < 5 年 B 図形 (4) ア (イ) > 正答 $8 \times 8 \times 8$
一辺が 8 cm の立方体の体積を求める式を書く問題

たいがさんとひまりさんは、1 から 9 までの数字が書かれた 9 枚のカードを使って遊びます。



カードを裏返しにして、1 人 3 枚ずつカードを引いて数をつくります。

たいがさんたちは、下の【ルール】で遊ぶことにしました。

【ルール】

- ① 引いたカード 3 枚すべてを、□ に当てはめて小数をつくります。

□. □ □

- ② 大きい数をつくった方が、勝ちです。

例えば、3 7 8 を引いた場合、3.78 や 7.38、8.73 などの数をつくることができます。

(正答例)

・ A

【記号】 ア

【わけ】 $\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ を通分すると、 $\frac{7}{3}$ は $\frac{28}{12}$ 、 $\frac{7}{4}$ は $\frac{21}{12}$ なので、 $\frac{7}{3}$ の方が大きいです。(解答類型 1)

・ B

【記号】 ア

【わけ】 $\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ を小数で表すと、 $\frac{7}{3}$ は 2.33…、 $\frac{7}{4}$ は 1.75 なので、 $\frac{7}{3}$ の方が大きいです。(解答類型 3)

・ C

【記号】 ア

【わけ】 $\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ を帯分数で表すと、 $\frac{7}{3}$ は $2\frac{1}{3}$ 、 $\frac{7}{4}$ は $1\frac{3}{4}$ なので、 $\frac{7}{3}$ の方が大きいです。(解答類型 5)

・ D

【記号】 ア

【わけ】 $\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ の分子は 7 で等しいです。 $\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ の分母を比べると $\frac{7}{3}$ の分母の方が小さいです。分子が等しいとき、分母が小さい方が大きいので、 $\frac{7}{3}$ の方が大きいです。(解答類型 7)

- (3) たいがさんたちは、【ルール 3】で遊ぶことにしました。

【ルール 3】

- ① 引いたカード 3 枚のうち、2 枚を □ に当てはめて分数をつくります。

$\frac{\square}{\square}$

- ② 大きい数をつくった方が、勝ちです。

たいがさんは、3 4 7 を引きました。



たいが

どちらの方が大きいかな。

$\frac{7}{3}$ $\frac{7}{4}$

$\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ では、どちらの方が大きいですか。下の ア から ウ までの中から 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

また、その記号を選んだわけを、数や言葉を使って書きましょう。

ア $\frac{7}{3}$ の方が大きい。

イ $\frac{7}{4}$ の方が大きい。

ウ $\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ の大きさは等しい。

【課題】 問題番号 3 (3)

4 年 A 数と計算 ア (ア)、イ (ア)

5 年 A 数と計算 ア (ア) (エ)、イ (ア)

$\frac{7}{3}$ と $\frac{7}{4}$ のどちらの方が大きいかを判断し、そのわけを書く問題

4 林さんは、擬音語（擬声語）・擬態語に興味をもつ、次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。①から⑦は、段落の番号を表します。

〔中田智子〕「会話の表情を表わす擬音語・擬態語」による。

二 林さんは、――線部「ほうふつとさせる」を正確に理解するために、「ほうふつ」を国語辞典で調べました。次の「国語辞典」に載っていた意味を読んで、⑥段落に「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現がいくつかあることに気が付きまし
た。「国語辞典」に載っていた意味を参考に、それらの表現のうちどれか一つを⑥段落の中から抜き出さない。

〔国語辞典に載っていた意味〕

ほうふつ 〔彷彿〕①はつきりと脳裏に思い浮かぶこと。よく似ていること。②おぼろげなさま。はつきりしないさま。

【成果】 問題番号4二（1年 書くことウ）

国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す問題を

正答 次のいずれかのように解答しているもの

「ありありと映し出している」、「心に思い描く」、「包括的に含んだイメージを得る」

一 「話し合いの一部」の――線部①「まずはみんながどんなことを課題として考えているかを整理した上で、どうしていけばよいかを考えませんか」という発言について説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までのの中から一つ選びなさい。

- 1 これから話し合う内容と手順を明確にしようとしている。
- 2 話し合う話題を広げて様々な意見を集めようとしている。
- 3 話し合いの前に行った情報の収集の仕方を振り返ろうとしている。
- 4 これまでの話し合いで出された意見から重要なものを選び出している。

【課題】 問題番号2一（1年 話すこと・聞くことア） 正答1

発言について説明したものとして適切なものを選択する問題

2 合唱コンクールの委員である山下さん、石川さん、大森さんは、学級の目標を達成するための課題についてアンケートを取り、その解決のために、出された意見をタブレット端末上で共有しながら話し合っています。次のアンケートの結果を示した画面①、話し合いの一部②「話し合いを受けて整理した画面」を読んで、あとの問いに答えなさい。

「アンケートの結果を示した画面」

〔目標を達成するための課題〕

- ・歌声に強弱がつけられていない。
- ・高い音の部分がうまく歌えない。
- ・歌い出しのタイミングがそろわない。
- ・練習を始めるまでに時間がかかる。
- ・練習後の振り返りのときに、意見や感想が出されない。

「話し合いを受けて整理した画面」

〔音楽科の先生に相談すること〕

- ・歌声に強弱をつけた。
- ・高い音の部分をうまく歌いた。
- ・自分たちで取り組むこと。
- ・指揮者をよく見て、歌い出しのタイミングをそろえよう。
- ・集まったらすぐに練習を始めよう。

「話し合いの一部」

山下 私たちの学級の目標は、「美しい歌声を響かせよう」です。アンケートで「目標を達成するための課題」として挙げられたものを、タブレット端末で共有したので、画面を見てください。① まずはみんながどんなことを課題として考えているかを整理した上で、どうしていけばよいかを考えませんか。

石川 そうですね。〔目標を達成するための課題〕を見ると、歌の表現の仕方に関わるものと、練習への取り組み方に関わるものの二つに分けられるのではないのでしょうか。

山下 私もそう思います。例えば、「歌声に強弱がつけられていない」や「高い音の部分がうまく歌えない」は、歌の表現の仕方になりますよね。

大森 そうすると、それ以外の「練習を始めるまでに時間がかかる」「練習後の振り返りのときに、意見や感想が出されない」は、練習への取り組み方に関わるものになりますね。

山下 まずは、〔目標を達成するための課題〕を二つに分けられましたね。

大森 では、このあとどうしていけばよいかを考えましょう。私は、歌の表現の仕方に関わるものは、音楽科の先生に相談するのがよいと思います。

石川 私もそう思います。ただ、「歌い出しのタイミングがそろわない」については、指揮者をよく見てタイミングをそろえるなど、自分たちで取り組むことができそうな気がします。

山下 そうですね。では、まずは自分たちで取り組んでみましょう。

大森 賛成です。

山下 いろいろな意見が出たので、今まで話し合ったことを受けて、〔音楽科の先生に相談すること〕と自分たちで取り組むこと③に整理してみました。④ どうでしょうか。

石川 先生や学級のみんなに伝える言い方になっていいと思います。

大森 この内容をみんなに伝えるのが大切ですね。

山下 そうですね。では、この自分たちで取り組むことは、学級のみんなにどのように伝えるとよいでしょうか。

石川 この画面をオンライン上の学級のページに載せるのがよいと思います。タブレット端末を見て、取り組むことをいつまでもまとめて確認することができるので、練習するときに気を付けることができると思います。

山下 私は、練習ごとに一つずつ取り組むことを呼びかけていくのがよいと思います。一つ一つしっかりと意識しながら練習できると思うからです。

二つの意見が出ましたね。では、話し合いをまとめていきましょう。

④ 「美しい歌声を響かせよう」という目標に向けて練習するために、学級のみんなにどのように伝えたらよいでしょうか。



【成果】 問題番号9 (1)

へ 1年 Dデータの活用 (1) ア(ア) 正答1

全校生徒の睡眠時間の度数分布表において、最小の階級から6時間以上7時間未満の階級までの累積度数を求める問題

- 9 保健委員の桃音さんと悠真さんは、自分たちの学校の生徒の睡眠時間の特徴について、保健だよりで報告することになりました。そこで、全校生徒300人を対象に、ある日の起床時刻と就寝時刻を調査し、睡眠時間を調べました。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

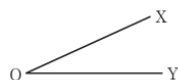
- (1) 二人は、全校生徒の睡眠時間の分布の傾向を調べようと考え、次の表にまとめました。

全校生徒の睡眠時間の度数分布表

階級(時間)	度数(人)	累積度数(人)
以上 4 ～ 5	1	
5 ～ 6	14	
6 ～ 7	75	ア
7 ～ 8	126	
8 ～ 9	62	
9 ～ 10	20	
10 ～ 11	2	
合計	300	

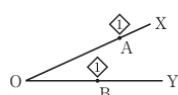
全校生徒の睡眠時間の度数分布表の ア には最小の階級から6時間以上7時間未満の階級までの累積度数が入ります。 ア に当てはまる値を求めなさい。

- 8 下の手順で、鋭角である $\angle XOY$ の2倍の大きさの角が作図できます。

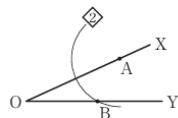


手順

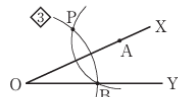
- ① 辺OX上に適当な点A、辺OY上に適当な点Bをとる。



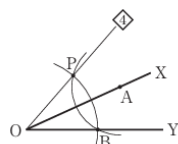
- ② 点Aを中心として半径ABの円をかく。



- ③ 点Oを中心として半径OBの円をかき、②の円との交点をPとする。



- ④ 直線OPをひく。



上の手順で作図した $\angle POB$ は、 $\angle XOY$ の2倍の大きさになります。

- (2) 前ページの手順で作図した $\angle POB$ が $\angle XOY$ の2倍の大きさであることを、つまり $\angle AOB = \angle AOP$ であることを証明します。図1は、手順の④の図の点Aと点B、点Aと点Pを結んだ図です。図1において、 $AB = AP$ 、 $OB = OP$ は手順から直接わかることです。これらを仮定とし、次のことがらを証明します。

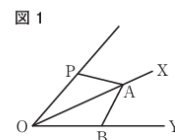


図1において、 $AB = AP$ 、 $OB = OP$ ならば $\angle AOB = \angle AOP$ である。

上のことがらが成り立つことは、 $\triangle AOB \cong \triangle AOP$ を示すことで証明できます。下の証明を完成しなさい。

証明

$\triangle AOB$ と $\triangle AOP$ において、(正答例)

・ 仮定より、

$$AB = AP \quad \cdots \cdots ①$$

$$OB = OP \quad \cdots \cdots ②$$

共通な辺だから、

$$OA = OA \quad \cdots \cdots ③$$

①、②、③より、3組の辺がそれぞれ等しいから、

$$\triangle AOB \cong \triangle AOP$$

合同な図形の対応する角は等しいから、

$$\angle AOB = \angle AOP$$

【課題】 問題番号8 (2) <2年 B図形(2)イ(イ)>

図1において、 $AB = AP$ 、 $OB = OP$ ならば $\angle AOB = \angle AOP$ であることを、三角形の合同を基にして証明する問題 ※正答例は問題文中に掲載

7

あなたは、友達の名ナ(Nana)の誕生日パーティーのために料理をするのを手伝います。主催者のジェーン(Jane)からの【メール】を読み、あなたがジェーンの家に行く時刻を、＜解答欄＞の1から4までの中から1つ選びなさい。

【メール】

_ □ ×

About Nana's Birthday Party

Date: April 20

From: Jane

Hi, friends,

This is Jane.

Here's some information about Nana's birthday party.

Date: Saturday, April 25

Time: The party starts at 11:30 a.m.

Please don't arrive before 11:15 a.m., because we will set up for the party.

Place: My house

If you can help, please read the information below.

Please come at 10:00 a.m. to cook for the party.

Please come at 10:30 a.m. to prepare the games.

I hope Nana will have a good time with everyone.

Your best friend,

Jane

←

＜解答欄＞

- ☐ 1 10:00 a.m.
- ☐ 2 10:30 a.m.
- ☐ 3 11:15 a.m.
- ☐ 4 11:30 a.m.

(注) below: 下の

【成果】問題番号7 (読むこと イ) 正答1

誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する問題

10

中学生のまいこ(Maiko)が英語の授業でインターネットの使用に関する文章を書きました。次の(1)と(2)の問いに答えなさい。

(1) 【まいこが書いた文章】を読み、まいこが最も伝えたいことを、＜解答欄＞の1から4までの中から1つ選びなさい。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

＜解答欄＞

- ☐ 1 Many junior high school students use the internet to play games.
- ☐ 2 Junior high school students should use the internet for learning more often.
- ☐ 3 There are many good videos for learning English.
- ☐ 4 We can find the meaning of an English word quickly.

【課題】問題番号10 (読むこと ウ) 正答2

インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する問題

2 児童生徒質問紙調査の結果

(1) 概要

児童生徒質問紙調査について、仙北市の特に顕著な傾向がみられるものについて示す。

全国及び秋田県の状況と比較した場合、仙北市の小学校6年生と中学校3年生は、若干の課題はみられるものの、全体としては望ましい傾向にあると言える。

以下においては、肯定的回答率を中心に傾向や課題に触れる。肯定的回答率とは、質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の割合のことを指す。

(2) 小学校6年生にみられる望ましい傾向

①「肯定的回答率」の高い質問

小学校6年生の回答のうち、「肯定的回答」の占める割合が、92%を超えた質問は、以下の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問項目	肯定的 回答率 (%)
1	1	朝食を毎日食べている	94.5
2	3	毎日、同じくらいの時刻に起きている	92.2
3	9	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う	93.8
4	12	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	95.3
5	14	人の役に立つ人間になりたいと思う	95.3
6	17	友達関係に満足している	93.0
7	21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある	92.1
8	46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	94.5
9	63	算数の授業で学習したことは、将来、社会で役に立つと思う	94.5
10	67	5年生までに受けた授業で、図形や数直線など図が示された問題では、問題を解くときに図が役に立つと思う	94.6

②全国との比較から

仙北市と全国の小学校6年生肯定的回答等の割合を比較して、差が＋5ポイント以上のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問項目	肯定的 回答率 (%)	全国 比較	県 比較
1	6	学校の勉強のことについて、親や家族と話している	87.5	12.5	8.3
2	10	将来の夢や目標を持っている	90.6	8.8	4.0
3	29	家に11冊以上の本がある（雑誌、新聞、教科書は除く）	53.9	20.1	11.6
4	33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	86.7	6.6	-0.2
5	36	自分はI C Tを使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができる	82.0	7.4	7.6
6	50	学級会における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる	85.1	7.8	0.5
7	52	国語の勉強は得意である	74.2	13.8	5.9
8	53	国語の勉強は好きである	68.0	10.6	1.0
9	66	5年生までに受けた算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動を行っている	68.7	5.7	-1.1
10	67	5年生までに受けた授業で図形や数直線など図が示された問題では、問題を解くときに図が役に立つと思う	94.6	6.3	3.6

※県の割合との比較は参考のために掲載

（3） 小学校6年生にみられる課題とされる傾向

① 「肯定的回答率」の低い質問

小学校6年生の質問事項に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合が、30%未満となる質問項目はなかった。勉強の時間や文化的活動等における課題については、以下の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問項目	割合 (%)
1	23	平日において学校の授業時間以外に、普段1日当たり2時間以上、勉強をしている（塾、家庭教師、インターネット活用等含む）	7.1
2	24	平日において学校の授業時間以外に、普段1日当たり2時間以上、PC・タブレットなどのI C Tを、勉強のために使っている	3.9
3	25	学校が休みの日に、1日当たり2時間以上、勉強をしている（塾、家庭教師、インターネット活用等含む）	9.4
4	30	新聞を週に1回以上読んでいる	7.8

②全国との比較から

全国と仙北市の小学校 6 年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－ 4 ポイント以下のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問項目	肯定的 回答率 (%)	全国 比較	県 比較
1	7	学校での悩みについて、親や家族と話をしている	31.3	-4.2	-2.3
2	13	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる	65.6	-5.0	-7.2
3	23	平日において学校の授業時間以外に、普段 1 日当たり 2 時間以上、勉強をしている (塾、家庭教師、インターネット活用等含む)	7.1	-14.5	-6.0
4	26	学校の授業時間以外に、1 日当たり 1 時間以上読書をしている (電子書籍も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)	3.9	-8.0	-6.4
5	35	5 年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの I C T を、ほぼ毎日以上使用している	21.9	-21.1	-15.4
6	62	算数の授業の内容はよく分かる	73.4	-4.1	-4.4
7	69	英語の勉強は得意である	55.4	-4.4	-7.8
8	70	英語の勉強は好きである	44.6	-22.1	-27.7
9	71	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたい	35.1	-10.3	-14.2
10	72	これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がある	42.2	-4.0	1.0
11	73	家庭学習の課題（宿題）として、PC・タブレットなどの I C T を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしている	7.0	-7.0	-1.3

※県の割合との比較は参考のために掲載

(4) 中学校3年生にみられる望ましい傾向

① 「肯定的回答率」の高い質問

中学校3年生の回答のうち、「肯定的回答」の占める割合が、92%を超えた質問は、以下の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問項目	肯定的 回答率 (%)
1	1	朝食を毎日食べている	92.4
2	3	毎日、同じくらいの時刻に起きている	94.2
3	5	あなたの家では主に何語で話している	99.4
4	11	人が困っているときは、進んで助けている	93.7
5	12	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	98.1
6	14	人の役に立つ人間になりたいと思う	96.8
7	17	友達関係に満足している	96.2
8	21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある	93.0
9	36	インターネットを使って情報を収集できる（検索・調べ活動など）	96.1
10	36	P C・タブレットなどのI C Tで文章を作成できる （文字、コメントを書くなど）	92.4
11	46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに 協力しながら課題の解決に取り組んでいる	94.3
12	55	国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う	93.0

② 国との比較から

生徒質問紙調査のうち、全国の中学校3年生と仙北市の中学校3年生の肯定的回答の割合を比較して、差が+10ポイント以上のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問項目	肯定的 回答率 (%)	全国 比較	県 比較
1	10	将来の夢や目標を持っている	78.4	10.8	3.8
2	29	家に11冊以上の本がある（雑誌、新聞、教科書除く）	51.0	14.3	7.6
3	33	地域や社会をよくするために何かしてみたい	87.2	14.9	3.4
4	52	国語の勉強は得意である	67.5	15.9	4.9
5	53	国語の勉強は好きである	71.4	14.2	1.5
6	54	国語の授業の内容はよく分かる	88.5	11.7	5.2
7	70	英語の勉強は好きである	64.3	13.1	6.0
8	80	1、2年生のときに受けた授業では、キーボード を使って英語を書く活動を行っていた （画面上に表示のキーボードやフリック入力を含む）	72.0	10.7	6.0

※県の割合との比較は参考のために掲載

(5) 中学校3年生にみられる課題とされる傾向

①「肯定的回答率」の低い質問

中学校3年生の質問事項に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合が、30%未満となる質問項目はなかった。勉強の時間や文化的活動等における課題については、以下の表のとおりである。

NO	質問番号	質問項目	割合(%)
1	23	平日において学校の授業時間以外に、普段1日当たり2時間以上、勉強をしている (塾、家庭教師、インターネット活用等含む)	17.2
2	24	平日において学校の授業時間以外に、普段1日当たり2時間以上、P C・タブレットなどのI C Tを、勉強のために使っている	0.6
3	25	学校が休みの日に、1日当たり2時間以上、勉強をしている (塾、家庭教師、インターネット活用等含む)	6.3
4	26	学校の授業時間以外に、1日当たり1時間以上読書をしている (電子書籍も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)	5.7
5	27	昼休みや放課後に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室(電子図書館を含む)に週1回以上行く	8.9
6	28	放課後や学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、地域の図書館(電子図書館を含む)に週1回以上行く	1.3
7	30	新聞を週に1回程度以上読んでいる	10.9
8	76	家庭学習の課題(宿題)として、P C・タブレットなどのI C Tを使用して、英語の音声を聞いたり英語を話したりする練習を週3回以上している	6.4

② 全国との比較から

生徒質問紙調査のうち、全国と仙北市の中学校３年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－４ポイント以下のものは次の表のとおりである。

N0	質問 番号	質問項目	肯定的 回答率 (%)	全国 比較	県 比較
1	6	学校の勉強のことについて、親や家族を話している	68.2	-4.0	-5.2
2	8	自分には、よいところがあると思う	78.3	-5.7	-7.9
3	23	平日において学校の授業時間以外に、普段１日当たり２時間以上、勉強をしている (塾、家庭教師、インターネット活用等含む)	17.2	-12.9	-3.7
4	25	学校が休みの日に、１日当たり２時間以上、勉強をしていた (塾、家庭教師、インターネット活用等含む)	6.3	-6.8	-8.2
5	35	１、２年生のときに受けた授業では、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴを、ほぼ毎日以上使用していた	35.0	-20.1	-20.7
6	38	１、２年生のときに受けた授業では、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	57.9	-7.6	-8.1
7	60	数学の勉強は得意である	39.5	-9.0	-10.0
8	62	数学の授業の内容はよく分かる	66.8	-7.4	-8.3
9	67	１、２年生のときに受けた授業では、文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、書かれていることを理解できる	61.8	-6.6	-8.8
10	69	英語の勉強は得意である	33.1	-6.4	-4.4

※県の割合との比較は参考のために掲載

(6) 仙北市教育目標に関わる事項の経年比較

仙北市の教育目標に関わる項目について直近3年間の肯定的回答率の変化を次に示す。

【目指す子どもの姿】

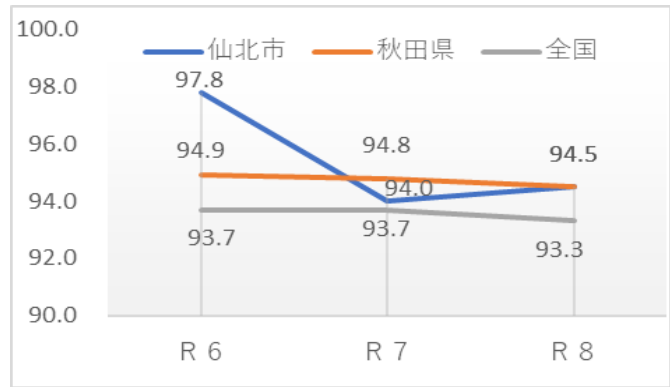
「ふるさとを愛し、豊かな心・確かな学力・健やかな体をもち、未来の地域や社会を支える意欲と高い志にあふれる仙北の子ども」の育成
～「骨太の人間の育成」「仙北市プライドの醸成」～

以下においては、肯定的回答率を中心に傾向や課題に触れる。肯定的回答率とは、質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の割合のことを指す。

(1) 朝食を毎日食べている

<小学校6年生>

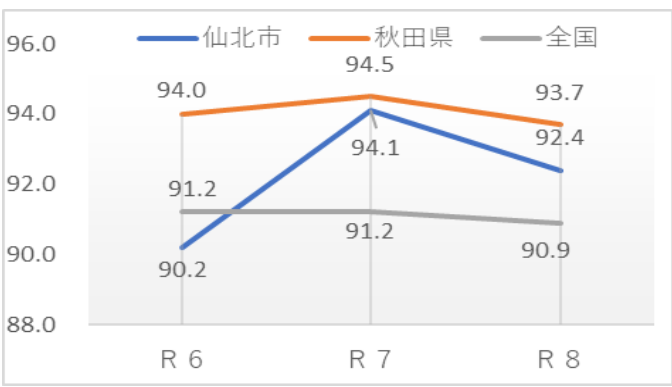
(単位：%)



3年間 平均値	仙北市	県比較	全国比較
	95.4	0.7	1.8

<中学校3年生>

(単位：%)

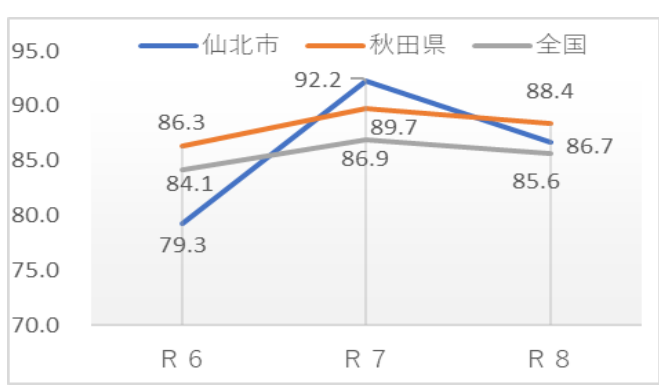


3年間 平均値	仙北市	県比較	全国比較
	92.2	-1.9	1.1

(8) 自分には、よいところがあると思う

<小学校6年生>

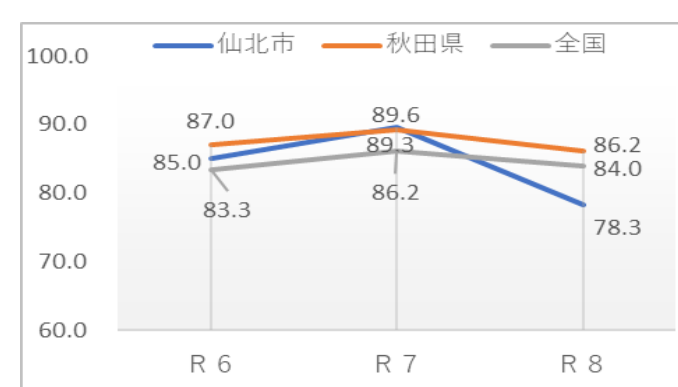
(単位：%)



3年間 平均値	仙北市(%)	県比較	全国比較
	86.1	-2.0	0.6

<中学校3年生>

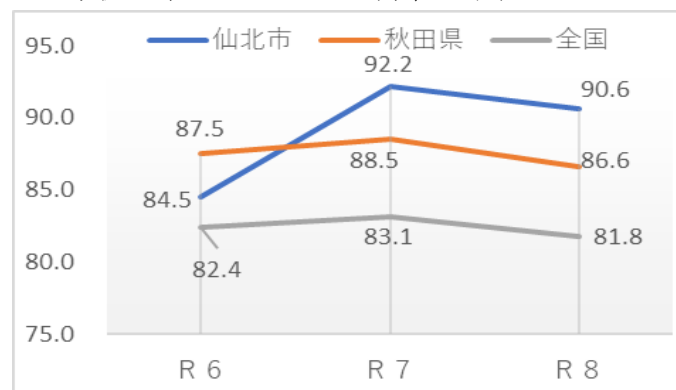
(単位：%)



3年間 平均値	仙北市(%)	県比較	全国比較
	84.3	-3.2	-0.2

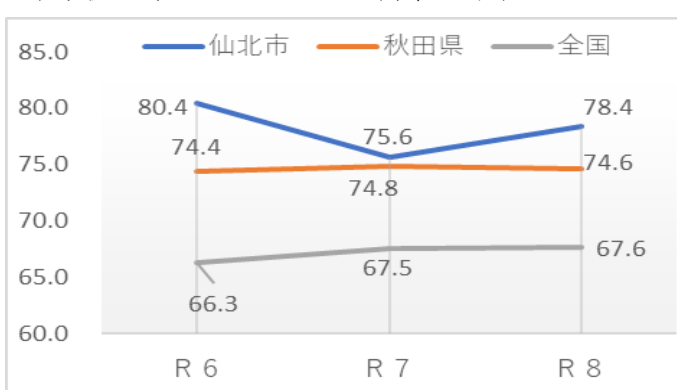
(10) 将来の夢や目標を持っている

<小学校6年生> (単位：%)



3年間 平均値	仙北市 (%)	県比較	全国比較
	89.1	1.6	6.7

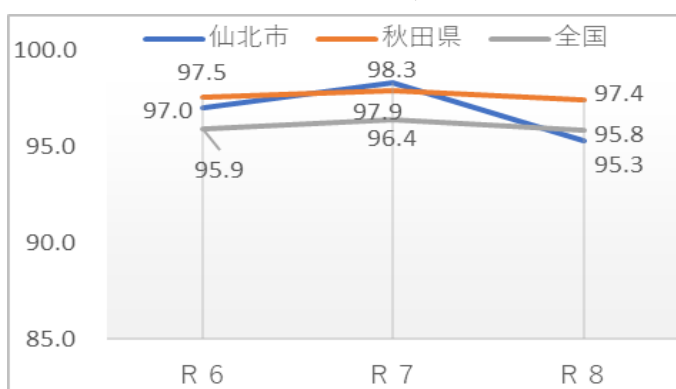
<中学校3年生> (単位：%)



3年間 平均値	仙北市 (%)	県比較	全国比較
	78.1	3.5	11.0

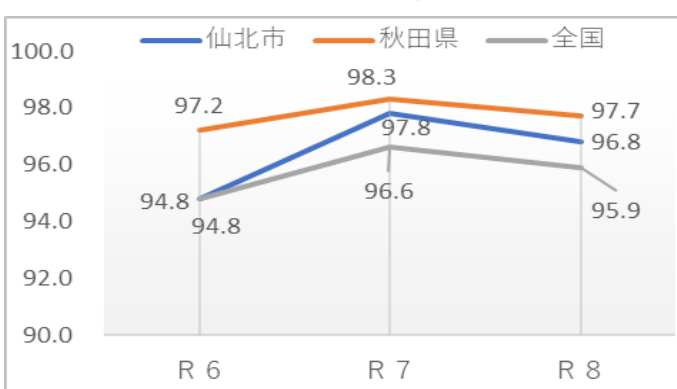
(14) 人の役に立つ人になりたいと思う

<小学校6年生> (単位：%)



3年間 平均値	仙北市 (%)	県比較	全国比較
	96.9	-0.7	0.9

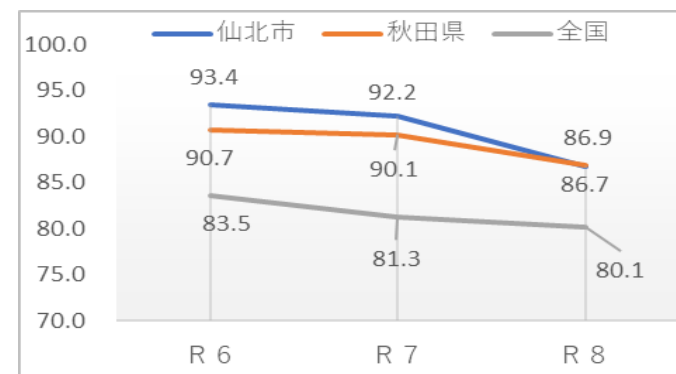
<中学校3年生> (単位：%)



3年間 平均値	仙北市 (%)	県比較	全国比較
	96.5	-1.2	0.7

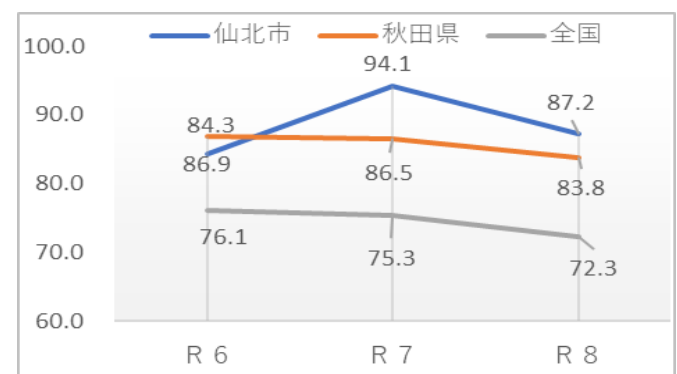
(33) 地域や社会をよくするために何かをしたい

<小学校6年生> (単位：%)



3年間 平均値	仙北市 (%)	県比較	全国比較
	90.8	1.6	9.2

<中学校3年生> (単位：%)



3年間 平均値	仙北市 (%)	県比較	全国比較
	88.5	2.8	13.9

Ⅳ 改善の方法

1 全体的な取組として

(1) 指導改善の具体策

教科に関する調査、児童生徒質問紙から見てきた仙北市の課題を解決するために、それぞれの部会で出された内容を次に示す。

<①小学校 国語部会>

☆実態

- ・「国語が好き」「国語が得意」という子供たちの割合が高く、内面的なことや学習に対する意欲が育っている。
- ・話すことに関する問題、書くことに関する問題についての正答率が低いことの理由として、情報量の多さにとまどっているケースが多い。
- ・「引用」の意味を踏まえた学習活動を行う必要性がある。

◎現在及び今後の実践

- ・資料を活用して自分の考えを伝えることができる力を育む授業改善が必要である。
- ・主語が誰であるかをはっきりさせることや読み取ったことを目的や意図に応じて分類整理することができるようにするため、伝えたいことを明確にしながら問題の意図を読み取っていく力をつける。
- ・文字数を制限して文章を書く取組を継続していくことにより、書くことへの抵抗感を減らす。

<②中学校 国語部会>

☆実態

- ・各学校の質問紙の回答において、肯定的回答が多く見られた。

◎現在及び今後の実践

- ・辞書を丁寧に使いながら、分からない言葉を調べる活動を行う。
- ・グループやペアでの話し合いや関わり合いにおいて、何のために行うのか目的意識をはっきりとさせた活動を行う。
- ・考えをまとめるのが苦手な生徒に対しては、段階を経ながら活動したり、ウェビングなどの思考ツールを使いながら、視覚的にもまとめやすいようにする。
- ・読書の時間を大切にすることで、国語好きを増やす。

<③小学校 算数部会>

☆実態

- ・算数が苦手だと感じている子どもが非常に多くなっている。

◎現在及び今後の実践

- ・授業中は分かっているものの、翌日には分からなくなっていることが多い。
- ・新しいものが入ると、既習内容が分からなくなるなど、定着に課題を感じる。
- ・スモールステップで段階を踏むような学習活動を展開することにより、各学年の学習内容の定着を図り、次学年での学習がスムーズに進められるようにする。

<④中学校 数学部会>

☆実態

- ・得意不得意の二極化傾向が見られる。

◎現在及び今後の実践

- ・個別指導による苦手を克服する機会を設けるなど、学ぶ場の確保によって安心感を得られるようにする
- ・1 C 2 Tの授業では、集団の理解度や段階に応じた説明や指導を充実させる。
- ・分かったときの達成感を感じやすい教科の特性があるので、知的好奇心をくすぐる導入や教材提示を行う。
- ・自分の考えだけではなく、発展や発見をするために他者理解をしながら共有する。
- ・根拠を示して説明・表現できる力を鍛え、「できた」や「おもしろい」という感覚に触れながら学びが深められるようにする。

<⑤中学校 英語部会>

☆実態

- ・聞く活動の繰り返しによってリスニング力の向上が図られている。

◎現在及び今後の実践

- ・帯活動を授業の前半で行うことにより、基本的な語彙力を身に付ける。
- ・英文を書く力を鍛えるため、I C Tも活用しながら書く活動を反復する。
- ・フォームズ等による授業の振り返りにより、全員の見方や考えを共有する。

<⑤小学校 研究主任会>

◎現在及び今後の実践

- ・授業においてはハンドサインを重視したり、生徒の声や反応をとりあげたりする。
- ・学びの約束や話し方や聞き方のルールを徹底することで学びの基盤をつくる。
- ・チャレンジテストによって基礎基本の定着を図る。
- ・読書や短い作文、ドリル学習などを朝の時間に行っていくことで、多様な力を身に付けていく。
- ・一人勉強や宿題のそれぞれのねらいを明確にする。

<⑥中学校 研究主任会>

◎現在及び今後の実践

- ・覚えたことを活用して新しいものを発見したり、深めたりする力を鍛える。
- ・授業を見合う会の実践、自校や他校の指導主事訪問や研究会等の参観により、授業展開の様々な手法について学び、授業改善を行う。
- ・校内の研究体制や授業づくりについて長期的かつ短期的なP D C Aサイクルを循環させ、実態や課題等に応じた具体策を講じていく。

(2) 各中学校区の情報交換から

各校の課題及びその改善に向けた取組について、中学校区毎に情報交換を行った。共通する成果、課題を洗い出し、課題に対して、9年間を見通した対応策を話し合った。

☆課題『生活面』

- ①情報端末機器の使用時間の増加
- ②SNS の利用による生活リズムの乱れ
- ③自己管理能力の低下

◎改善策

- ①メディアコントロールの実施（小・中合同）
情報端末機器や SNS の使用ルールについて児童生徒自身が考える。学校と家庭とが連携して時間の使い方やのつきあい方について考える。
- ②情報モラル教室の開催を図り、家庭でのメディア使用の在り方や安全な情報活用について理解を深める機会を設ける。
- ③メディア使用時間、朝食の摂取状況、就寝時刻などについてのアンケートを実施し、結果は個人面談に生かし、それぞれの課題に応じた生活習慣の指導につなげる。
- ④自分の気持ちのコントロールが苦手な児童生徒のために、気持ちを落ち着かせるためのマインドセットの仕方や規則正しい生活リズムの定着について指導を行う。

☆課題『学習指導面』

- ①家庭学習の時間の確保（習慣化）
- ②読書習慣、読書量

◎改善策

- ①課題意識や学習意欲が高まるような課題提示や話し合い、関わり合いにより、互いに考えを深め合えるような場をつくる。
- ②児童生徒の実態や発達段階、課題等を踏まえた授業構成を行い、楽しさや分かった体験を通して、その教科が好きになる児童生徒が増えるような取組を行う。
- ③読み聞かせや朝の読書時間の確保、図書委員会による集会や活動の充実などにより、本に触れられる機会を確保していく。

(3) 共通実践すべき具体的方策

仙北市内小中学校で共通理解の上で共通実践すべき方策

- ①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- ②資質・能力の三つの柱をバランスよく育成するための ICT の効果的な活用
- ③心の通い合う明るいあいさつの励行
- ④共感的な集団づくりのための「温かさや思いやりのある言動」の奨励

生徒指導の実践上の視点にある「安全・安心な風土の醸成」の実現のため、「あいさつから始まる解放された人間関係」の構築を目指し、上記4つを柱として実践を行っていく。

同一中学校区での研修や研究、情報交換等による義務教育9年間の系統的・段階的な指導の更なる充実を目指すとともに、「共通で目指す子どもの姿」、「共通で取り組んでいること」を可視化するなど明確にしてその実践を継続していく。

2 学年・教科・区分・設問ごとの具体的な改善の方策

学年・教科・区分について設問ごとの結果から、改善のために検討の余地があるものについては、次の資料等を活用して、課題解決を目指す必要がある。

- 「全国学力・学習状況調査 秋田県調査結果の概要」

〈令和 8 年 1 0 月 秋田県検証改善委員会〉

- 令和 8 年度 全国学力・学習状況調査「報告書」「解説資料」

令和 8 年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた説明会「説明資料」

〈令和 8 年 8 月 国立教育政策研究所〉

- 「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力・判断力・表現力の育成に向けて～」

【小学校版】

〈平成 2 2 年 1 2 月 文部科学省〉

【中学校版】

〈平成 2 3 年 5 月 文部科学省〉

- 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

〈令和 2 年 3 月 国立教育政策研究所〉

3 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について

1 地域の人材活用の仕組み作りと財政的支援

仙北市教育委員会は学校における地域人材等の活用及び特色ある取組について、一層の支援を行う必要がある。

本市教委では平成 2 0 年度から「学校教育バックアップ事業」を開始し、市内の各小・中学校で教育支援活動をしている地域住民を「バックアップチーム」として登録し支援している。今後も小・中学校において、授業場面での活用や授業サポートとしての活用を行い、事業を充実させていく。

また、平成 2 5 年度からは、各学校の特色ある「ふるさと教育・キャリア教育を推進する取組」や教材の充実に対し一層の財政的な支援も実施している。平成 2 6 年 8 月には「キャリア教育の視点を重視したふるさと教育」指導資料として冊子「ふるさと仙北学」を発行、各校に配布した。平成 2 7 年 1 2 月にも同冊子を増刷し、各校に配布した。ふるさと教育を基盤とした取組の充実が児童生徒の生きる力、地域社会における自己有用感の育成につながるようさらに働きかけていく。

さらに、学校・家庭・地域連携総合推進事業を立ち上げ、地域学校協働本部を設置し、コミュニティ・スクールを設置していく中で、地域人材活用の仕組み作りに取り組んでいる状況である。

2 北浦教育文化研究所研究委員会の充実について

上記Ⅳ－2 の各種資料については、各学校の授業改善や研修における活用とともに、研究委員会での研修内容として取り組むことが必要と考える。各校の充実した取組に効果のある研究委員会の開催を目指す。

資料 1

「全国学力・学習状況調査」結果取扱要綱

平成19年12月20日
教育委員会告示第19号

最終改正 令和元年10月教育委員会告示第22号

(目的)

第1条 この要綱は、文部科学省が実施する「全国学力・学習状況調査」(以下「本調査」という。)の仙北市及び仙北市立小・中学校の調査結果について文部科学省から提供される情報(以下「結果」という。)の取扱について必要な事項を定めることを目的とする。

(結果の公表)

第2条 仙北市教育委員会は公立学校設置管理者として地域住民及び保護者に対して結果についての説明責任があることから、次のことに配慮しながら本調査の結果を公表する。

- (1) 教科に関する調査結果の数値による公表や、個々の学校名を明らかにした公表など、結果の公表が学校間の序列化や過度な競争につながるような公表は行わないこと
- (2) 本調査の結果から教育及び教育施策の成果と課題を把握しその改善を図る必要があること
- (3) 本調査の結果の分析を踏まえて仙北市教育委員会として今後の改善方策を併せて示す必要があること
- (4) 本調査により測定した学力は特定の一部であること
- (5) 本調査により測定した学力は固定値ではなく変化するものであること

(結果の公表の内容)

第3条 文部科学省が市町村教育委員会に提供する結果の資料(別表1)について、公表に係る取扱は次の通りとする。

- (1) 「1」の公表については、国及び県の平均正答率と比較して(別表2)の「階層区分」によりそれぞれの比較結果を(別表2)の「表現」に基づいて公表する。「階層区分」と「表現」の関係についても併せて公表する。平均正答率の比較以外の結果は公表しない。
- (2) 「2」の公表については、「学習指導要領の領域別」「評価の観点別」「問題形式別」に国及び県の平均正答率と比較して(別表2)の「階層区分」によりそれぞれの比較結果を(別表2)の「表現」に基づいて公表する。「階層区分」と「表現」の関係についても併せて公表する。各設問ごとの結果の比較は公表しない。
- (3) 「別表1」の「3」については、仙北市全体の特に顕著な傾向を示すものについて公表する。

- (4)「別表 1」の「4」については、公表する。
- (5)「別表 1」の「5」については、仙北市全体の特に顕著な傾向を示すものについて公表する。
- (6)「別表 1」の「6」～「8」は公表しない。

(改善策の立案)

第 4 条 結果を受けた改善策は仙北市教育委員会北浦教育文化研究所「研究主任部会」及び「算数・数学学習指導研究委員会」、「国語学習指導研究委員会」に改善策の立案に必要な若干名の特別委員を加えた「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」において、次の内容について立案し教育委員会に報告する。

- (1)主として「知識」に関する問題について、結果に応じてその内容を確実に児童生徒に身に付けさせる方策について
- (2)主として「活用」に関する問題について、実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力を身に付けさせるための授業改善のあり方について
- (3)改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について
- (4)その他

(結果の公表の方法)

第 5 条 第 3 条に示す公表の内容及び第 4 条に示す改善策は、仙北市教育委員会北浦教育文化研究所において、改善策の策定後すみやかに報告書を作成し公表する。

(情報公開)

第 6 条 仙北市情報公開条例第 7 条 6 号を根拠として第 3 条に示す公表内容以外の情報は不開示情報とする。

(その他)

第 7 条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は教育長が別に定める

附則

この告示は、平成 19 年 12 月 20 日から施行する

附則

この告示は、平成 26 年 11 月 28 日から施行する

附則

この告示は、令和元年 10 月 1 日から施行する

(別表 1)「文部科学省が市町村教育委員会に提供する資料」(第 3 条関係)

	内 容	備 考
1	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の調査結果概況	(1)棒グラフ(正答数別児童生徒の割合) (2)数値(正答数別の児童生徒数、平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差)
2	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の設問別調査結果・解答類型別調査結果	(1)表(「学習指導要領の領域別」、「評価の観点別」、「問題形式別」の平均正答率) (2)表(各設問ごとの「学習指導要領の領域別」、「評価の観点別」、「問題形式別」の正答率、無回答率)
3	各市町村域内の公立学校全体の質問紙調査の回答状況	(1)表(児童生徒質問紙の各質問の選択し別の児童生徒数、割合)(選択肢別の学校数、選択肢別の学校数の割合) (2)棒グラフ(各質問の選択肢別の児童の割合)(選択肢別の学校の割合)
4	各市町村が設置管理する学校の参加概況等	
5	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の調査結果と児童生徒質問紙調査の結果のクロス集計表	(1)表(各質問について*四分位層ごとに選択肢別の児童生徒数) (2)表(各質問について*四分位層ごとに選択肢別の児童生徒数の割合)
6	各学校の各教科区分別の調査結果概況	各学校に提供される情報
7	各学校の各教科区分別の設問別調査結果・解答類型別調査結果	各学校に提供される情報
8	各学校の各児童生徒の各教科の調査・児童生徒質問紙への解答(回答)状況	各学校に提供される情報

「*四分位層」…成績の上位から 25%のきざみで 4 つのグループに分け相関の度合いを示す

(別表 2)「(別表 1) の 1 及び 2 の公表に係る階層区分と表現」(第 3 条関係)

	階層区分	表現
1	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +6% 以上であるもの	十分満足できる状況
2	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +6% 未満～-6% より大きい状況であるもの	おおむね満足できる状況
3	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が -6% 以下であるもの	改善が必要な状況